

その後の幅広い学びのきっかけを授けたい

芝浦工業大学柏中学高等学校

小松一貴先生

授業DATA

使用テキスト:10代から学ぶパーソナルファイナンス

実施学年:中学3年生 1クラス40人、5クラス

実施授業:11月～3月の社会科「公民」の授業のうち、週1コマを使い実施

※中学『公民』は、高校の社会科必須科目「歴史総合」「地理総合」「公共」の基礎となる

学校の横顔:

芝浦工業大学柏中学高等学校
(千葉県・私立・中高一貫校)

生徒の男女比約2:1。ほぼ全員が
高校へ内部進学

「ゲーム課金」に違和感

小松一貴先生が「10代からのパーソナルファイナンス」(以下「10代テキスト」)で授業をしたきっかけは、生徒たちが「ゲーム課金」をしていると知ったことだった、と振り返ります。

「校内の食堂でも交通系ICカードが使えるなど、キャッシュレス決済が当たり前。その中でゲーム課金をしている生徒たちの金銭感覚に違和感を持ち、お金について学んだほうがいいと考えました。保護者の方からもぜひお金の授業をやってほしい、と要望もあったので、中学3年の『公民』の授業に取り入れることにしました」

そして小松先生が身近な家計について学べるいい教材はないかと探して見つけたのが、日本FP協会の「10代テキスト」だったのです。充実した「インストラクターズマニュアル」があるのも安心材料になりました。

徹底的にお金の管理を考える

とくに小松先生が力を入れたのが、お金の管理の部分、「収入と支出」を徹底的に考えさせることでした。

「あなたにはどれだけお金がかかっているかをかなり熱く語りました。生徒は中学受験をして入学していますから、受験料や入学金といった数字を具体的に示して見せたので、よく理解

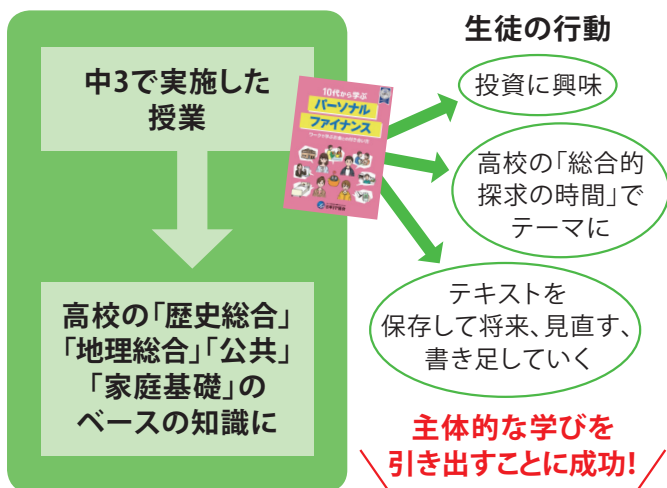
できたのではないかと思います」

「10代テキスト」のレッスン1にある「お金との付き合い方」で、「お金が足りない」という感覚を理解し、やりたいことにいくらかかるか、足りないならどうするのかを考えてもらいたくて、ここに一番時間を取ったそうです。

小松先生はグループワークにしてそれぞれの意見を出し合ってもらいました。「1人では考えつかないことでも、何人かいるとお互い意見を言い、深めていくことができますから」

さらに小松先生はテキストに気づいたことをどんどん書き込むよう勧めたそうです。

「テキストに直接いろいろ書き込んで、あとで振り返ってみる。将来、中学3年の自分と成長した自分を比較できるようできるだけ書いて



■授業展開の例

「10代から学ぶ
パーソナルファイナンス」P8

2 支出の中身は「ニーズ (NEEDS)」? 「ウォンツ (WANTS)」?

収入の使い道、つまり支出の中身については、数え切れないほどの対象がありますが、大きく2つに分けることができます。1つは「ニーズ (NEEDS=必要なモノ・コト)」、そしてもう1つは「ウォンツ (WANTS=欲しいモノ・やりたいコト)」です。

みなさんは今、得た収入のほとんどをウォンツに使っているかもしれません。生活費や学校・部活に必要な費用など、ニーズにあたる支出は、保護者が負担している場合が多いのではないしょうか。しかし将来、一人暮らしをするときがくれば、生活のためのニーズが発生し、ウォンツだけにお金を使っていられなくなります。そのため、ウォンツの優先順位を考える必要が出てきます。

Think! 今、欲しいモノ・やりたいコトを挙げてみよう。また、それらをニーズとウォンツに分けてみよう。

欲しいモノ・やりたいコト
(例: 洋服、スマートフォン、旅行)

徹底的に考えさせたい

1人で考えていくのは難しい

ニーズ

ウォンツ

グループ
ワークに

小松先生

みんな、やりたいこと、行きたいところはあるよね。
グループで話し合ってみよう

ブランドの服がほしい!

沖縄へ卒業旅行に行きたい

管理栄養士になりたい



小松先生

じゃあ、その予算はどれくらいかかる?
どれくらい出せるかな?

〇〇〇万円

お小遣い〇〇〇円

小松先生

足りないね。どうするの?

貯める

節約する

おじいさんに頼んで
出してもらう

おくように伝えました」

中3で学んだ意義

授業の最後には「もっと考えたかったら高校で勉強していきなさい」とさらに主体的な学びを促しました。すると高校になって、「総合的探求の時間」で「投資」などに関連するテーマを取り上げた生徒が15人ぐらいいたそうです。保護者と株式投資を一緒に体験したり、20年前と今の金利の違いを比較した生徒もいました。

「よく教科横断とかいわれますけど、1つの教科を縦にうまくつなげていくことで、横に広げること大切。「世界史」では世界経済の動きを必ず学びますし、受験でも難関大は経済史が出題されます。家計という一番身近な所から、日本の経済、世界の経済を理解するきっかけになります。また、高校の「家庭基礎」の授業では「家計」も出てくるため、生徒たちは『10代テキスト』を見直す、と言っていました。成年年齢である18歳で学ぶのがいいかもしれませんが、18歳は大学受験がありますから、中3で早めにこの授業ができたのは良かったと思います」

生徒からも「自分が思っている以上にお金の世界とつながっていること、一歩間違えればお

金が消えてしまう危険性があることも学んだ」という感想があったそうです。

小松先生は今後も「10代テキスト」を取り入れて授業を工夫していきたい、と言います。中高一貫校だからこそその指導とも言えますが、「10代テキスト」の活用法として、参考になりそうです。

金融リテラシーに
自信がなくても大丈夫!

小松先生からのメッセージ

「10代テキスト」はとてもよくできていると思います。私自身、「公民」が専門ではなく金融に詳しいわけではないのですが、このテキストのおかげでスムーズに授業を進めることができました。一緒に勉強しようというスタンスで生徒たちと同じ目線で授業ができたのがよかったのかもしれませんが、金融系の授業に関しては教師と生徒、お互いの知識を出し合いながら、授業を作っていくと、実りのあるものになるのでは、と感じました。